

# ほとけの 混和会だより

令和五年七月

東光院

仏の混和会

第167号



## 大自然の 営みに感謝

### 大自然の営みに 生かされる様々な命

私達人類は大自然の営み、

そして植物や動物など様々な命を頂いて生かされて居ます。言い換えると

人類は大自然の営みを外れて生きる事も、他の命を必要以上に貪り人類だけで生きることにも不可能な事です。

一世代前の人々は体験的にこの事実を肌で感じていて、山や海そして大自然の営みを神様とか仏様として畏敬の念を抱き感謝の御心

をささげておりました。

現在の私達はこの自然の営みに生かされて居ると言う事を感じる事も出来ず、全てが当たり前と何の疑問を抱く事も感謝の念を抱く事も無く、欲望の赴くままに生きてしまいました。

更に人類は、本能的に、生活する仲間として家族や集落を形成し共に生きる知恵を持つておりました。

そして共に食事をしたり助け合いながら生きる事の意義や喜びを感じ、慎ましやかな生活の中に両親の為とか家族の為になどと他を思いやり、他の幸を念じ共に生きることの幸を感じ感謝の念を抱いておりました。

この「共生」共に生きる環境が崩壊した現代では必然的に孤独社会を招き、いずれは人類の存続も危ぶまれるのではと危惧されます。

この危機的状況下に於かれて

私達は如何に生きていたら良いのか、僧侶として何が出来るのかこれは長い間追い求めた、私の大きな課題でもありました。

幸福を感じながら共に幸せに生きる為に、お釈迦様はどのようにに説かれたのか調べると思ふは先ず「三宝」に帰依しなさい。と説いておられましたのでここに紹介させて頂きます。

### 三宝に帰依

三宝とは、インドの言葉で  
ブツダ・ダルマ・サンガ。と言  
漢字に訳して、仏・法・僧。と言  
います。

仏 Ⅱ 大自然の真理その物

法 Ⅱ 大自然の営み、又は導き

僧 Ⅱ 共に慈愛心を育む仲間  
人が一人で生きると言う事は大変不安ですが、自然と私達そして人と人、共に生きる環境が築けたら大きな安心が抱けます。

その共に生きる良好な環境を築く上に於いて、最も尊い三つの宝が、仏・法・僧。です。

お釈迦様はこの三宝を敬い、感謝の念をささげなさいと説い

てくださいました。

「三宝に帰依」この言葉の私の解釈は、「大自然の出来事全てを肯定的に又、導きと受け止めて、共に慈愛心を育む仲間の幸を念じ、感謝の念を抱く環境に於いては、大きな幸福感が得られる」と理解しました。

ある人が比叡山の千日回峰行を成し遂げた酒井阿闍梨様に「人はなぜ生きるのですか」などと質問をしました。すると阿闍梨様は「なぜ生きるのか、なんて考えてしまうのは、感謝する気持ちが足りないからだね」と答えているのが印象的に私の心に残っております。「感謝する気持ちがあつたら、なぜ生きるのなんて考えないよ」と言うことなのです。

人はだれもが自分一人で生きていくのでは無く生かされて居るのです。そして生かされて居ることに感謝の念を抱けた時、喜びと幸福感に芽生え生きる事の意義も見えて参ります。

先ずは僧「サンガ」の構築を目指し、共に感謝と慈愛心を育み、支え合つて生きる環境が築けられるよう勤めて参りたいと存じます。合掌 亮観拜



日本仏教に登場する仏様を  
毎号少しづつご紹介。仏様を  
動規制の無い夏を迎え、過  
ごりに帰省された家族と多  
いお盆の始まり。ご家庭も改  
めかと思ひます。そこのて  
紹介します。



●お盆（盂蘭盆）  
語源はインドの漢

ウランバナの漢  
訳になります。  
つるす苦しみの一逆さまに  
の昔お釈迦様の弟子モク  
ンでは母が死後餓鬼道で苦し  
んでいるのを知り母を助け  
る術をお釈迦様に訪ねま  
す。すると「七月一日（旧  
暦）に多くの僧侶の仲間が  
修行から開ける。母の代わ  
りに皆に優しさを施しなさ  
い。さすればその善意の功  
徳によって母は救われるだ  
ろう」と答えました。  
この様に大本はご先祖様  
が帰ってくるという話では  
なく、ご先祖様を苦しませ  
ら救うため供養しませよ  
う。と説かれていたのが  
「仏説盂蘭盆経」です。  
ここに日本古来からのご  
先祖様は常にこの世の私  
達を見守ってくれる存在。

その慰勞感謝を夏にお  
うしご先祖様を夏にお  
の行事が合さり本  
自のお盆となりまし  
うの盆の時期には迎  
えの火を焚き、花火  
を焚き、道古来、よ  
霊への道古来、よ  
ますが、道古来、よ  
浄な物と考へ、霊を  
魔を払う儀式に使用  
す。

お盆の時期には迎  
えの火を焚き、花火  
を焚き、道古来、よ  
霊への道古来、よ  
ますが、道古来、よ  
浄な物と考へ、霊を  
魔を払う儀式に使用  
す。

その為、送り火を三度  
またぎ、無病息災を願  
う。昔から夏は亡くなる方  
が多かった為、家の中に  
精霊棚という祭壇を組み  
様々な方法で先祖様を  
手厚くもてなし、供養す  
る事から子孫である我々  
厄災から護つてもらう儀  
式が夏の仏教行事として  
生活に取り組まれてきた。

親を十代迎ると二千人、  
二十代なら二百万人と言  
われております。誰一人  
欠けても存在出来ません。  
今生きている奇跡に、帰  
省されたご家族と共に今  
は亡き大切なご家族に思  
いを馳せ、思い出話や感  
謝する時間をもちたいの  
も良いですね。いつか自  
分もご先祖様に成った時  
快く帰れる習慣を  
伝え残す為にも。



五月十九日 農林水産省

は、気候変動や各国の紛争に  
よる、日本の食料確保は危機  
的状况下にある。国民の食を  
確保する為、食料安全保障  
対策本部の設置の案を報じて  
おられました。

日本の小麦自給率はわず  
か1%有事の際食料責めに  
あつたらどうなるのだろうか  
ちよつと心配です。

5月21日  
小麦60kg  
収穫致しました

6月25日ジャガイモを収穫

自然の恵み  
有り難く頂きました。



本堂の屋根の改修  
工事を急遽執り行う  
ことと成りました。

昭和六十年、檀信徒の皆様  
ご協力を仰ぎ建立された本堂  
瞬く間に三十八年の歳月が過ぎ  
てしまいました。

当時銅板は永久的な物と思  
瓦と瓦の谷間と成つて居る所に  
銅板を葺いて雨の浸透を防いで  
おりました。

しかし昨今の酸性雨で銅板が  
腐食し、知らず知らずの内に雨  
もりがするようになつておりま  
した。よつて急遽、瓦をはがし  
ステンレスに張り替える大修理を  
行うことと成りましたこと  
ご報告申し上げます。

尚本堂は通常どおりご利用  
頂けますのでご安心ください。

